

# 命のビザの話



リトアニア ビリニウスの松にあるモニュメント

昨年の12月、「杉原千畝」(すぎはら ちうね)という映画が、公開されました。この映画は、第2次世界大戦中、ナチスによる迫害から、6000人あまりのユダヤ人の命を救った外交官・杉原千畝の生涯を描いた作品です。杉原千畝は、多くのユダヤ人を救ったということで、イスラエル政府から「ヤド・バシェム賞(諸国民の中の正義の人)」という称号を与えられました。

当時彼は、リトアニア共和国の領事館で外交官として勤務していました。1940年の夏、ドイツの占領下にあったポーランドから、たくさんのユダヤ人がドイツからの迫害を逃れ極東経由でアメリカへ脱出するため、日本の通過ビザを求めて領事館に殺到しました。

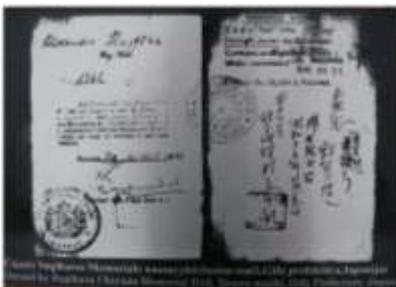
彼は、何度も日本政府に問い合わせますがその答えはすべて「NO」でした。日本と同盟国であったドイツへの敵対行為になり、命の危険も考えられましたが、悩んだ末にユダヤ人達へのビザの発給を決断しました。彼は、1か月余りの間ビザを書き続け、領事館が閉鎖され国外退去するまでビザを発給し続けました。



サンフランシスコ 聖カトリック教会にあるイコン(聖像)に描かれた杉原千畝さん

後に彼は、次のように述べています。「私の

行為は、外交官としては間違っていたかもしれないが、人間としては当然。彼らを見殺しにすることはできなかった」と。



モニュメントに再現された杉原千畝発行のビザのレプリカ

杉原千畝のように大勢の命を救うことは難しいかもしれませんが、私達の隣にいる人の命を大切にすることはできるはずです。